

# 授業レポート CLASS REPORT

## 生徒の目が輝く！ アクティブ・ラーニングの 考えを取り入れた授業

### —USE Readにおける授業の工夫—

枝迫 香菜 Edasako Kana (鹿児島県奄美市立名瀬中学校)

#### 1. はじめに

教師をしていると、さまざまな先生方の授業を見ることがあります。その中で、「すばらしい授業だった！」「こんな授業がしてみたい！」と思う授業には、ある共通点があります。それは、「生徒の目が輝き、生徒が自ら積極的に学んでいる」ということです。私自身も、「教えたかったことをうまく説明できた」という授業よりも、「生徒が自ら学ぼうと目を輝かせていた」授業に対しての充実度の方がはるかに高いという実感があります。

このような、生徒の能動的な学びにフォーカスした教授・学習法が「アクティブ・ラーニング」です。この言葉に出会ったとき、「私が考えていた良い授業の正体はこれだったのか」とすぐに納得したのを覚えています。

本連載においては、私なりに試行錯誤しながら行ってきた「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業」の実践例を3回にわたって紹介したいと思います。

#### 2. USE Read における実践

##### (1) 実践を行うきっかけ

地区の研修会などがある際、英語教師同士でよく話題になるのが「USE Read どうしてる？」ということですが。

私自身、「長文を見るだけで生徒がやる気をなくす」「教室がしーんと静まりかえって、居心地が悪い」「教えることがたくさんありすぎて時間がかかる」「生徒の集中力が続かない」などの悩みを持っていました。

そこで、「アクティブ・ラーニング」の考えを取り入れることで、もっと楽しく、活動的にUSE Readの授業を展開できないかと考え、この授業を行うことにしました。

##### (2) 授業のポイント

今回紹介するのは、1年生 LESSON 7 の USE Read における実践です。ご存じの通り、NEW CROWN においては、LESSON 6 以前には USE Read は存在しません。GET で扱われる対話や 30 語程度の文を見慣れた生徒にとって、突然現れる 87 語の長文は、かなり衝撃的なものではないでしょうか。どこか 1 カ所でも躓きを感じてしまえば、たちまち読む意欲が薄れてしまいそうです。

そこで、本実践においては、生徒の思考をアクティブな状態に保つために、次のような工夫をすることにしました。

- 【生徒の思考をアクティブな状態に保つための工夫】
- ① 文の大切な部分などを正確に読み取ることに力点を置き、その他を欲張らない。
  - ② 生徒の思考を活性化させるような活動の流れを工夫する。
  - ③ ペア活動の視点を明確にもたせられるような発問(課題)を工夫する。

具体的には、①については、特に新出語句等の取り扱いに注意しました。GET では、本文を読む前に新出語句の意味や発音を確認し、フラッシュカードを用いてくり返し練習させています。しかし、ここでは GET の約 2 倍の量の新出語句が扱われており、また、their や own のように、語単体よりも文脈の中の方が意味を理解しやすい語もあります。そこで、「しっかり覚えらるるまで練習させよう」と欲張らず、意味と発音を確認する程度に留めることにしました。なお、本文を読む際にはいつでも意味を確認できるよう、ワークシートの右端に新出語句とその意味をまとめて提示しました。

次に、②については、「First Reading (個)」→

「First Reading (ペア)」→「First Reading (全体)」→「Second Reading (個)」→「Second Reading (ペア)」→「Second Reading (全体)」という流れで読み進めていくことを板書しながら示しました。ここで大切にしたのは、「個→ペア→全体」という流れです。「個→ペア」の流れを意識させると、ペア学習に向けて、生徒個々が自分の意見をもつ必要性を感じながら読み進めることができます。また、「ペア→全体」の流れを意識させると、自分の考えや読み方をペアで検証してから全体の活動に取り組める、という安心感をもたせることができます。また、First Reading では概要の把握を、Second Reading では内容の理解を目的として読ませることで、常に新鮮な気持ちで本文を読み返せるように工夫しました。

③については、次の2つの課題を設定しました。

First Reading
○それぞれの段落には何について書かれている？
1 レポートのテーマについて
2 車いすバスケットボールの( )について
3 車いすバスケットボールの( )について
4 レポートのまとめ
Second Reading
○ Wheelchair basketballの特徴を4つ書こう！

ポイントは、First Reading の課題を( )に言葉を入れる形式にしたり、Second Reading の課題に「4つ」という条件を示したりしたこと。このような課題にすれば、「こっちの( )は何て書いた？ どうしてそう思ったの？」とか、「特徴はいくつ見つけた？ 私は3つだけ。4つ目はどこに書いてある？」といった生徒の疑問や質問がペア学習の視点となり、活発に意見交換がなされると考えました。

また、細部にこだわりすぎず、本文全体の大切な部分やだいたいの内容をつかむための読み方に気付けるよう工夫しました。例えば、このレポートでは第2、第3段落が body となっており、それぞれのテーマがリード文にはっきりと書かれています。このような文章の構造に気づくことができれば、「細部にこだわりすぎず、だいたいの内容をつかむ」読み方を生徒が体験的に理解できると考えたからです。

なお、本授業では、本文、新出語句とその意味、

First Reading, Second Reading の課題を示した次のようなワークシートを教材として使用しました。

【授業で使用したワークシート】

Lesson 7 Wheelchair Basketball USE Read		P30	
Wheelchair Basketball		新出語句	意味
① Do you know about wheelchair basketball? Many people play it in Japan.	people	人々	
② This is Mr Kiyoya Kazuyuki. He plays basketball. He is in a special wheelchair.	Japan	日本	
He can move easily in it. <b>本文</b> yer. He can shoot very well.	shoot	シュートする	
③ What are some rules of <b>本文</b> if? Players can carry the ball on their laps. They can't hold the ball too long. They can push their own chairs one or two times with the ball.	carry	カール	
④ Wheelchair basketball is very exciting. Let's watch a game.	exciting	自分の	
	long	またほ	
	push	おたくする	
	own	試合	
	or	試合	
	exciting	試合	
	game	試合	
	watch	試合	
	appet	試合	
First Reading	Second Reading	課題	
それぞれの段落には何について書かれている？	Wheelchair basketballの特徴を4つ書いてみよう！		
① レポートのテーマについて			
② 車いすバスケットボールの( )について			
( )について			
③ 車いすバスケットボールの( )について			
( )について			
④ レポートのまとめ			

(3) 授業の実際

実際の授業の中で、最も生徒の思考がアクティブな状態にあったのは、Second Reading の「個」と「ペア」です。当然、「個」の時間には、教室全体が静まりかえっていましたが、指先で文字を追いつつながら必死で読もうとする生徒の姿が見られました。また、タイマーが鳴り「もう少し時間がほしい人」とたずねると、多くの生徒の手が一斉に挙がりました。一方、「ペア」の時間になると、「いくつ見つけた？」「私3つしか見つからなかったの」「どこに書いてある？」と話しはじめました。中には、「先生、本当に4つもあるのですか？」と教師にたずねてくる生徒もいるほど、生徒は必死に本文の内容を読み取ろうとしていました。なお、この発言に対しては、「4つ目が見つからない人は、このスポーツで使う道具について何か情報がないか探してごらん」とヒントを与えました。

最後に、全体の間では、課題に対する答えを確認しながら、次のようなまとめを行いました。

○2段落目に出てくる5つの He は、全て京谷和幸選手のことを指している。このことから、この段落には一貫して車いすバスケットボールの選手(京谷和幸選手)について書かれていることがわかる。

○3段落目の2つの They は、どちらも players を指している。このことから、プレイヤーが「できること」と「できないこと」、つまりルールについて書かれていることがわかる。

○どちらの段落も、最初の文(リード文)に段落のテーマが示されている。

○Wheelchair basketball では特別な車いすを使用している。本文中には「He is in a special wheelchair.」と示されており、この is は「～にいる」という存在を表す用法である。

なお、これらのまとめは、「この He は誰のこと?」というように生徒に問いかけながら行いました。生徒からは答えが次々に返ってきて、「個」や「ペア」での活動の中で、本文をくり返し読んでいた成果だと感じました。

#### (4) 本授業における工夫と生徒の思考の関係

本授業における工夫と、生徒の思考の関係はおおよそ次のようであったと考えます。

##### 【新出語句の導入場面】



今日の単語難しいなあ。こんなに一気に覚えられないよ。

今日の単語はワークシートに意味まで載っているので大丈夫!



なんだ、それなら安心だ! がんばって読むぞ!

##### 【活動の流れを確認する場面】



えー! こんなに長い文章、私には読めないよ。

今日は、個人で読んだ後、ペアで話し合いをしてもらいます。



ちゃんと話し合えるように、がんばって読まなくちゃ!

##### 【「個」から「ペア」の活動に移行する場面】



車いすバスケットボールの特徴を「4つ」書きましょう。

4つ? 3つじゃないのかな?



ペアで話し合ってください。

いくつ見つけた? 私はここにある3つは見つけたんだけど…

このようにまとめてみると、生徒の思考をアクティブな状態に保つためには、明確な見通しをもつことが大切であることが分かります。つまり、「自分にもできそうだ」「次にこれをするから、まずこれをしなければ」「自分一人ではわからないから、ここを相手に聞いてみよう」といった見通しをもたせるよう工夫することで、生徒の目が輝く Reading の授業を行うことができるということです。そのため、授業を計画する際には、授業の各場面で生徒にどのような見通しをもたせるか、ということを常に意識する必要があります。

#### (5) 今後の課題

今回の授業については、上に示したように、生徒の思考をアクティブな状態に保つことに、ある程度成功したのではないかと考えています。しかし、課題もあります。それは、教室内で使用する英語をもっと増やすべきだ、ということです。生徒の実態を考えると、どうしても日本語で話す場面が増えてしまいました。しかし、今後は読んだことをもとに、さらに英語でコミュニケーションを図らせることも可能になるよう、授業を改善していきたいと考えています。

### 3. おわりに

USE Read をアクティブに行うには、Content-Based であることが前提条件だと私自身は考えています。NEW CROWN の USE Read は、語数が多く、難しいという意見をよく耳にしますが、一方で、内容的には非常に興味深いテーマであり、読みがいがあるのが特徴です。つまり、Content-Based の授業や、ここに示したようなアクティブ・ラーニングの考えを取り入れた授業を行うにはもってこいの教材だと言えるのではないのでしょうか。生徒の思考をアクティブに保つための工夫をちりばめながら、生徒の目が輝く USE Read の授業を、今後も研究していきたいと思えます。

さて、今回は、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を成功させるために必要な、英語授業のしつけや、GET における言語活動の工夫について紹介します。